

「平庭の麓から」 夏休み直前号

文責：久慈市立山形小学校 校長 角谷 隆章

学校+保護者+地域=子どもの健やかな成長

「学び高め合う子」、「心豊かな子」、

「強くたくましい子」の育成をめざして

【夏休みをどう過ごす？ どう過ごさせる？】

いよいよ夏休みが間近に迫ってきました。子ども達はそろそろ、‘ウキウキ、ソワソワ’している頃かと思えます。

さて、この夏休み。過ごし方次第で、子どもがよい方向へ進むか、悪い方向へ進むか、運命の分かれ道と言っても言い過ぎではないかもしれません。それは、夏休み中には悪い習慣がつきやすいからです。例えば、学校が休みだと早起きする必要がありませんから、ついつい夜更かしをしまい、それが原因で朝寝坊が癖になることが考えられます。また、決まった時間に食事を摂らなかったり、間食が増えたりして、体調を崩すことも考えられます。生活リズムが崩れることにより、疲れやすくなったり、集中力が低くなったりすることもあり得ます。こんな状態になれば、宿題だって手つかずのままになってしまうかもしれませんよね。こうなってしまったなら、元に戻すのは至難の業です。2学期初日、学校が再開した時、どうなっているかは想像に難くないでしょう。

子どもがどう過ごすかは、もちろん大事ですが、大人（お家の方々）の働きかけは、それと同じくらい重要なこと。今日は、そのポイントをいくつか紹介します。

1 やりたいことを書きださせる。

親が押し付けるのではなく、まず子どもに書かせてください。自分がやりたいことを行うことにより成長が見込めます。やりたいことがない子どもにも、考えるきっかけを与えられます。できるだけ親は干渉せず、自主性を育むようにしましょう。「早寝早起きを続ける」「お風呂掃除のお手伝いをする」「犬の散歩をする」どんなことでもいいです。そして、書いたものをみて、親子で話をしましょう。例えば、「早寝早起きは具体的に何時にするのかな？」「宿題が入っていないけど、それはどうするのか？」こうして、親が不足部分を補いつつ、子どもが自分で考えた『目標』が完成するわけです。

2 『目標』を達成するための計画づくりを行う。

『目標』が決まったなら、それを達成するために計画づくりを行います。計画は夏休み全体を通した計画と、1日の計画を立てるようにしましょう。1日の計画は、起きる時間、勉強する時間、自由時間、寝る時間などです。お手伝いを毎日するという目標があれば、16:00～16:30「お手伝い（お風呂掃除）」と書き入れておく手もありますし、あさがおの観察を毎日行うというなら、それも書き入れておくことで、子どもの意欲につなげることができます。全体を通した計画は、自由研究や読書、そのほか、稽古事、スポーツ活動などがあります。例えば自由研究なら、1日～3日「題材選び」、4日～7日「調査活動」、8日～10日「模造紙へのまとめ」、11日～12日「発表の練習」など、計画表を作ってその予定を書き込んでおきます。

家族で決まっている旅行や帰省等があれば、それも書き込んでおきましょう。キャンプや海、川などのウォータースポーツなども、夏休みだからこそできるチャレンジです。コロナ禍の中ですが、対策をとりつつ、できることなら、そのような日も設けたいところです。

チャレンジして達成すれば、子どもの自信につながります。計画を立てて実行することで、規則正しい生活を送ることができます。子どもがよい方向へ進む夏休みになります。

3 確認をして、仕上げをする

親は子どもの様子を見守り、励まして支援する役割を担います。毎日声をかける必要はありません。3日~4日に1度程度でいいと思います。進捗状況を確認してください。できていれば、「よく頑張っているね。最後まで頑張ろうね」、遅れていれば「どうすればいいと思う?」と聞いて、子どもに考えさせ、具体的な軌道修正をいっしょに行います。子どもが具体的に立てた目標ですので、その自覚を持たせながら、行うことが大切です。夏休み終了の3日前くらいが最終確認、仕上げです。100%出来ていたら、うんと褒めてください。100%出来ていなくてもいいです。ここまでの頑張りを褒めてください。それが50%だったとしても取り組んだことは褒めてください。その上で、子どもにどうすればよかったのかを投げかけるだけ。そこで詰問はしない。大丈夫、投げかけるだけで、子どもは頭の中で自ら「こうすればよかった」と考えていますから。

残り2日は、できるだけとやかく言わず、最後まで見守りましょう。そこでどんな生活を送るのか、それをみるだけで、今後の家庭での教育の参考になります。出来ていないことに自ら取り組むのか、取り組まないのか。もっと高い目標を掲げて頑張るのか、頑張らないのか。それを見守るだけで十分です。

4 おまけで

夏休み最終日、または夏休み最後の日曜日など、できれば、家族そろって、ちょっとしたごちそうをいただくのもいいですね。夏休みの思い出話や、どんな2学期にしたいかを語り合う。2学期への壮行会とでも言えればいいでしょうか。こんな締めくくりができれば最高ですね。

ほら、気づけば、2学期からも、規則正しく、元気に学校生活を送る子どもに成長していますよ。多少できなかったことがあっても、構いません。親としては、一番の目的=規則正しく過ごさせることを達成したのですから。ちょっとしたごちそうは、子育てをうまくできた自分へのご褒美でもあるのです。

私には大学4年生と大学1年生の息子がいます。大学4年生の長男が小1だった頃、いわゆる自由研究をしないまま、冬休み最終日を迎えたことがありました。親が怒っても仕方がないのですが、「何でやっていなかったんだ!」と言いながら、急いで模造紙を買ってきて、国語の教科書から「1年生でこれから習う漢字」を書かせて、苦し紛れに提出させた思い出があります。そんな思い出と、私が中学校の担任として生徒に指導してきたことを小学生の保護者向けに向けアレンジして、書いてみました。私の‘教育観’も入っているので、これですべてうまくいくとか、これが正しいというわけではありません。参考にできる部分があれば、どうぞという程度のもので。 (ちなみに二男は、こんなことは一切ありませんでした。兄弟でも違うものですね)

さて、夏本番です。楽しい夏休みにするためにも、コロナはもちろん、熱中症等、体調には充分気をつけながら、過ごしていきたいものです。ではまた2学期に。1学期間、様々ありがとうございました。